

## 令和5年度「大分県女性のチャレンジ賞」受賞者紹介

受賞者	所在地・活動開始	活動内容
<p>【個人】 いわきり ちか <b>岩切 千佳</b>氏</p> <p>・七島蘭工房ななつむぎ</p>	<p>国東市 平成 26 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職場で手を怪我し、そのリハビリとして七島蘭工芸品づくりを開始。国内で唯一、国東市でしか栽培されていない畳表の材料『七島蘭』。工芸を学びながら生産者の七島蘭に対する想いや仕事を間近で見続けるうちに、次世代に残していきたいと思い、平成28年からは地域の小学校や高校、母校大学などで出前授業や栽培、工芸体験などの活動も開始。</li> <li>●七島蘭生産を含む国東半島で育まれた農業システムが評価され世界農業遺産に認定されてからは、さらに精力的に活動を行い、JR九州クルーズトレイン『ななつ星 in 九州』の車内ワークショップや『界 由布院(星野リゾート)』の全客室のランプのほたる籠のシェード部分を担当するなど国内外から高く評価されている。</li> <li>●大分県の取り組みにも積極的に参加して、七島蘭の魅力発信に寄与している。</li> </ul>
<p>【個人】 おうわ はるか <b>應和 春香</b>氏</p> <p>・株式会社村ネットワーク 代表取締役社長</p>	<p>豊後大野市 平成 29 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農家さんが一生懸命作った野菜を生そのまま販売するだけでは流通が限られるため、賞味期限や輸送コストなどを考えつつ、野菜の栄養、色などを損なわずに野菜をパウダー化するという商品を開発。</li> <li>●「時間が足りず栄養を考えた料理ができない」「子どもが野菜嫌い」などの子育ての相談を受け、手間がかからず栄養も取れる野菜パウダーが役立つと確信し、パウダーを使ったレシピを紹介するなど母親を応援するインターネットサイトも立ち上げた。</li> <li>●DX化によりHPを刷新し、それまで電話で対応してきた見積対応を既存のHPを活かしつつ、ユーザーが使いやすいよう「見積フォームシステム」を導入し、売上高を201%へ拡大させた。</li> </ul>

## 令和5年度「大分県女性のチャレンジ賞」受賞者紹介

受賞者	所在地・活動開始	活動内容
<p>【団体】 <b>株式会社なか の<sup>や</sup>家</b></p> <p>・代表取締役 和田 鈴香氏</p>	<p>豊後大野市 平成6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成6年に「中野加工組合」を設立し、まんじゅう、ゆでもち等の製造販売を開始。令和元年度には組合事業を和田鈴香氏が引継ぎ、「中野加工所」を設立。令和4年度には、雇用の確保、インボイス制度への対応、後継者への事業継承を見越して、経営を法人化。</li> <li>●急速冷凍を活用して、県内の別府市や宇佐市の観光施設とのコラボ商品を企画・販売するなど新たな販路開拓に取り組む。</li> <li>●商品ラベルとしてはタブーであった黒色ラベルをあえて採用し、葬祭用へ利用しやすいように工夫するなど、酒まんじゅうの強みや需要の場を生かしてブランディングすることで、販売額を向上させている。</li> </ul>
<p>【個人】 くどう <sup>せつこ</sup> <b>工藤 勢津子</b> 氏</p> <p>・大分県交通安全協会大分南支部支部長</p>	<p>由布市 昭和56年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●女性の運転免許取得者の増加とともに事故が増えた昭和55年から交通安全に関わる。子が通う小学校のPTA会長などを歴任したことなどから声がかかり、設立準備中だった挾間町の女性ドライバー協会を束ねることとなる。</li> <li>●昭和56年に大分市女性ドライバー協会の委員となり、昭和58年4月からは大分県交通安全協会大分南支部副支部長、同協会女性ドライバー協議会会長として活動し、令和4年6月には女性初である同協会大分南支部の支部長に就任。</li> <li>●交通安全に関する広報啓発活動等を毎月1日、20日や各交通安全運動期間中に行い、交通安全を呼びかけている。</li> </ul>

## 令和5年度「大分県女性のチャレンジ賞」受賞者紹介

受賞者	所在地・活動開始	活動内容
<p>【個人】  <small>さとう ともこ</small>  <b>佐藤 智子氏</b></p> <p>・ダブルケア大分県しましまかふえ代表</p>	<p>大分市            令和3年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダブルケアラー(子育てと介護を同時に担う方)の支援及び集いの場所として、ダブルケアカフェを大分市内外で毎月1回(年12回)開催し、情報交換や仲間づくりの場として、ケアラーの心の拠り所づくりに取り組んでいる。</li> <li>●大分市が毎年開催する「NPO 博」や「うめはるフェスタ」においてブースやワークショップを出店し、当事者だけでなく子育て世代やダブルケアに関心がある方へも啓発を行っている。</li> <li>●若年層への啓発活動として、令和4年度より「認知症キッズサポーター養成講座」を城東地域包括支援センターと共催で行い、子どもたちに認知症について知ってもらう機会を作っている。</li> </ul>
<p>【個人】  <small>よしだ ゆか</small>  <b>吉田 由花氏</b></p> <p>・さんく、子ども体験型共育実行委員会 代表</p>	<p>大分市            令和2年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育活動に関わってきた大分県内の有志でつくる「子ども体験型共育実行委員会」の代表を務める。</li> <li>●幼稚園教諭の資格や経験、環境を生かし、出産後の女性の「働くことの後ろめたさや保育園に子どもを預ける罪悪感、子どもとの関係不安、子育てと家事の両立」などの気持ちに寄り添った活動を行うとともに、多くの子どもたちとその親に楽しみながら学ぶ場を提供。</li> <li>●新型コロナウイルスで自然体験の機会が減った子どもたちと、打撃を受ける漁業者の状況を打開しようと両者をつなぐイベントを開催するなど、子どもたちの「生きた学びの場」の創出を図る活動を行っている。</li> </ul>